

問 題 (20点)

次の各取引について仕訳しなさい。

1. 株主総会において、繰越利益剰余金¥2,000,000 の一部を次のとおり配当および処分した。なお、利益準備金は、会社法上、資本準備金と合わせ資本金の4分の1に達するまで社外流出分の10分の1を積み立てることとされている。前年度末の資本金は¥50,000,000、資本準備金は¥12,000,000、利益準備金は¥380,000であった。

配当金 ¥700,000

利益準備金 各自算定 別途積立金¥1,000,000

2. 日商株式会社は、新株500株(1株の払込金額¥80,000)を発行し、払込期日までに申込証拠金の全額が払い込まれ、別段預金に預け入れていたが、本日(払込期日)、申込証拠金を資本金勘定へ振り替えるとともに、別段預金を当座預金に預け替えた。なお、資本金には、会社法規定の最低額を組み入れ、剰余は株式払込剰余金とする。
3. 東商株式会社は、株主総会において、別途積立金¥2,500,000を減少させて、繰越利益剰余金の借方残高¥2,640,000をてん補し、残額を次期に繰越することを決定した。
4. 決算において、当期純利益¥80,000を計上する。
5. 株主総会の決議により、当期期首の繰越利益剰余金¥36,000,000の一部を、配当金¥29,000,000、新築積立金¥3,000,000として配当および処分した。なお、利益準備金は会社法の定める額を計上した。ただし、この会社の資本金は¥100,000,000であり、資本準備金と利益準備金の合計額は¥15,000,000である。
6. 株式800株を1株当たり¥20,000で発行した。払込金は、全額当座預金に振り込まれた。振込額のうち2分の1は資本金とせず、資本準備金として計上することとした。なお、新株発行のための諸費用(株式交付費)¥300,000は現金で支払ったが、これは当期の費用として処理することとした。
7. 株式会社千代田商会は、当期の決算を行った結果、¥7,500,000の損失を計上した。
8. 増資を行うため、株式1,500株を1株当たり¥800の価額で発行し、全額の払込みを受け、払込金は当座預金とした。なお、会社法が認める最低額を資本金とする。
9. 相模商店を現金¥5,000,000で買収した。なお、相模商店を買収した際の資産・負債は、受取手形¥2,400,000、商品¥3,000,000、および買掛金¥1,600,000であった。
10. 当社は、日商商会(株)を吸収合併し、新たに当社の株式100株(時価@¥65,000)を同社の株主に交付した。同社から承継した資産および負債は、次のとおりである。なお、株式の交付に伴って増加する株主資本は、すべて資本金とする。

現金(帳簿価額¥5,000,000、時価¥5,000,000)

売掛金(帳簿価額¥3,800,000、時価¥3,800,000)

備品(帳簿価額¥3,000,000、時価¥3,000,000)

借入金(帳簿価額¥7,000,000、時価¥7,000,000)

氏名 _____

(解答用紙)

得点	／ 20
----	------

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

	借方科目	金額	貸方科目	金額	出所
1	繰越利益剰余金	1,770,000	未払配当金 利益準備金 別途積立金	700,000 70,000 1,000,000	106回 1-2
2	株式申込証拠金 当座預金	40,000,000 40,000,000	資本金 株式払込剰余金 別段預金	20,000,000 20,000,000 40,000,000	108回 1-4
3	別途積立金	2,500,000	繰越利益剰余金	2,500,000	108回 1-5
4	損益	80,000	繰越利益剰余金	80,000	109回 1-2
5	繰越利益剰余金	34,900,000	未払配当金 利益準備金 新築積立金	29,000,000 2,900,000 3,000,000	112回 1-5
6	当座預金 株式交付費	16,000,000 300,000	資本金 資本準備金 現金	8,000,000 8,000,000 300,000	114回 1-1
7	繰越利益剰余金	7,500,000	損益	7,500,000	116回 1-4
8	当座預金	1,200,000	資本金 資本準備金	600,000 600,000	121回 1-1
9	受取手形 仕入れ	2,400,000 3,000,000 1,200,000	買掛金 現金	1,600,000 5,000,000	127回 1-3
10	現金 売掛金 備品 のれん	5,000,000 3,800,000 3,200,000 1,500,000	借入金 資本金	7,000,000 6,500,000	129回 1-1

1. 配当金 $\times 10\% = 70,000$ 、資本金 $\times 1/4 - (\text{資本準備金} + \text{利益準備金}) = 120,000$
これより、利益準備金の積立額は、70,000 となります。
2. 申込証拠金を全額受け取った時点で、次の処理が行われていることが前提です。
(別段預金) 40,000,000 (株式申込証拠金) 40,000,000
3. 繰越利益剰余金の借方残高つまり損失の補填は、必ずしも全額の補填が必要なわけではなく、会社の任意で行えばよく、残りは次期に繰り越すことができます。
4. 損益勘定は、借方に費用勘定の残高が、貸方に収益勘定の残高が記入されていますから、この差額が当期純利益(当期純損失)となり、繰越利益剰余金に振り替えます。
5. 1. と同様
6. 考え方は2. と同様、ただし、払込金が当座預金にされている点や資本金に組み込まない金額を資本準備金にすることが指定されている点に注意
7. 4. と同様
8. 2. と同様
9. 資産・負債を丸ごと時価で取得し、現金を支払う。差額分はのれんとなります。
10. 9. と同様、ただし、株式を発行します。